

国公立薬学部長
(科長・学長) 会議

報告者：国公立大学

1) 平成31年からの実務実習を想定した試行状況

各大学において、地区調整機構との連携のもと、改訂モデル・コアカリキュラムに準拠した実務実習の円滑かつ教育効果の高い実施に向けて、

- ・薬局・病院における実務実習の在り方に関する検討
- ・実務実習実施計画書の整備
- ・実務実習記録の整備
- ・改訂モデルコア・カリキュラムに基づく事前学習内容の変更と教育効果の検証

を行っている。

試行については、日本薬剤師会から地区調整機構へ薬局実習におけるトライアルの実施について要請があり、平成28年度から一部施設で開始されている。これについては、平成29年度も引き続き施設数を増やして実施されている。大学によっては一部の学生がこういったトライアルを実施している施設で実習を行っており、その教育効果や評価の検証に協力している。

大学独自の試行については、一部の大学で、同一地域で連続した22週間の薬局・病院実習を行うにあたり、期間内に相互に学生が行き来して実習を行うモデルを試行的に行う、薬局・病院実習の期間の見直しを行う等の検討が行われているが、国公立大学としての情報の共有化は行われていない。

改訂モデル・コアカリキュラムに準拠した実務実習における課題としては、

- ・ふるさと実習の在り方
- ・実習経費の在り方（グループ化による細分化等）
- ・評価の質の担保

等があげられ、今後国公立大学に限らず、薬学実務実習に関する連絡会議での検討が必要と考えられる。

2) 改訂モデル・コアカリキュラム及び薬学実務実習に関するガイドラインについての説明・周知状況

各大学でのガイドラインの周知については、FD等での説明、周知を図り、ほぼ完了していると考えられる。今後も、適宜、平成31年度に向けた改訂モデル・コアカリキュラムに準拠した実務実習の実施体制の整備状況等について情報の共有化を図る予定である。

一方、実務実習施設における改訂モデル・コアカリキュラムの内容（F. 薬学臨床）及びガイドラインの周知については、地区間あるいは施設間で相当の差があることが見て取れる。こういった差は、実務実習実施体制を整備する上での妨げになるので、早急な周知が望まれる。